

第2次宇都宮市食料・農業・農村 基本計画(後期)

【概要版】

担い手いきいき！消費者にっこり！
地域と築く「農業王国うつのみや」



2019年3月
宇都宮市

本市農業の役割 ～求められていること～

① 食料の安定供給を通じた市民生活の保障

市民の安全・安心な生活環境を確保するため，“安全・安心な食料”の生産・供給を通じて、市民生活を守っていくことが求められています。

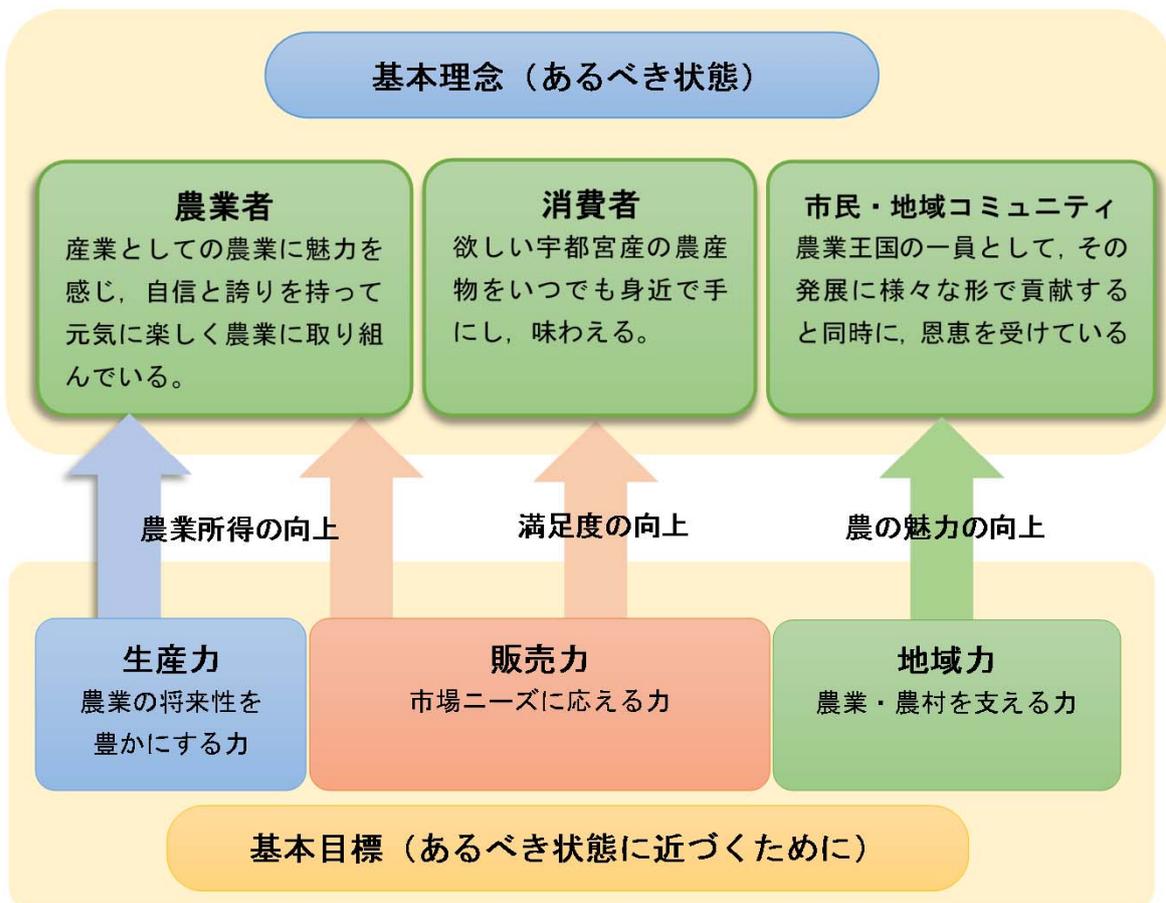
② 経済の活性化

本市の主要産業の一つとして市内総生産の一翼を担い、本市経済の活性化に寄与することが求められています。

③ 多面的機能の発揮（自然環境の保全，教育・福祉活動の場の提供）

継続的な営農活動を通じて良好な景観の形成や生物多様性の保全，治水や水源の涵養等の国土保全，さらに，体験学習と教育の場としての役割が求められています。

農業の役割を果たすため、「生産力(農業の将来性を高める力)」「販売力(市場ニーズに応える力)」「地域力(農業・農村を支える力)」の3つの力を向上させることにより、「農業者」「消費者」「市民・地域コミュニティ」がそれぞれの役割を果たしながら、農業の恵みや恩恵を受けている状態を目指します。



目指す農業都市像

担い手いきいき！消費者にっこり！
地域と築く「農業王国うつのみや」

第2次 宇都宮市 食料・農業・農村基本計画

食料・農業・農村基本計画とは

本市の農業行政の指針となるものであり、農業施策を総合的に推進するために策定する計画です。

計画の目的

- 本市の農業が「食」と「農」を取り巻く環境の変化に的確に対応し、本市に備わる豊かな農資源と地理的優位性を活かしながら持続的に営まれること。
- 市民に安全・安心で高品質な農産物を安定的に供給できる価値の高い産業として発展できること。

計画期間

令和元(2019)年度から令和5(2023)年度までの5年間

本市農業の現状

農業を取り巻く環境は大きく変化しています。

世界では・・・

人口増加に伴う食料需要の拡大
経済連携等によるグローバル化の進行など

国内では・・・

技術革新の進展、農業・農村の価値の再認識、
労働力の減少・不足、気候変動リスクの高まりなど

- ・ 担い手となる経営体の増加
- ・ 基幹作物・特色ある農産物の存在
(基幹作物のいちご、トマト、梨や特色ある大谷夏いちご、新里ねぎ等)
- ・ 市民の地場農産物に関するニーズの高まり
- ・ 食品関連企業の存在
- ・ 消費地へのアクセスの良さ
- ・ 生産品目の多さとGAP(JA基準)の定着
- ・ ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)形成ビジョンにおける地域拠点の配置

本市農業の強み

本市農業の弱み

- ・ 労働力不足の深刻化
- ・ 集落営農の組織化の遅れ
- ・ 認定農業者の平均所得の伸び悩み
- ・ 引き受け手のない農地の増加
- ・ 経営耕地の縮小と耕作放棄地の拡大
- ・ ほ場の大区画化と集積の遅れ
- ・ 省力化の遅れ
- ・ 直売所の地場農産物の不足
- ・ 生産履歴 記帳の不徹底
- ・ 市民の農業理解の伸び悩み
- ・ 有害鳥獣被害の拡大

本市農業の課題

- ① 効率的な生産活動を行う大規模な経営体の育成
- ② 若年の新規就農者の確保
- ③ 農地集積による担い手の経営規模の拡大
- ④ 効率的な生産基盤の整備(水田再整備・大区画化)
- ⑤ 災害に強い環境づくり
- ⑥ 土地利用型園芸の生産性向上
- ⑦ 機械化・スマート農業の促進
- ⑧ 高収益作物の生産拡大

生産力

⇒ 担い手・生産基盤・技術の力を最大限発揮し、「生産性向上を図るための構造改革」を行う必要があります。

- ① 国内外の販路創出・拡大
- ② 宇都宮産農産物の魅力PR
- ③ ブランド園芸品目の生産拡大・知名度向上
- ④ 需要を見据えた生産・販売の強化
- ⑤ 安全・安心の見える化(販路拡大)
- ⑥ 地産地消の拡大
- ⑦ 安全・安心の見える化(地産地消)

販売力

⇒ 販売単価や販売量を高める取組を推進し、「高く・多く売れる農産物づくり」を行う必要があります。

- ① 定年帰農の推進
- ② ユニバーサル農業の推進
- ③ 農地の守り手の確保・育成
- ④ NCC形成ビジョンに基づく地域拠点の活性化
- ⑤ 環境保全型農業の促進
- ⑥ 市民の農業理解の促進
- ⑦ 都市農業の振興・都市農地の保全

地域力

⇒ 農の多面的機能の発揮・維持に向けて、市域全体において、「地域ぐるみで農業・農村を支える体制づくり」を行う必要があります。

取組主体の役割

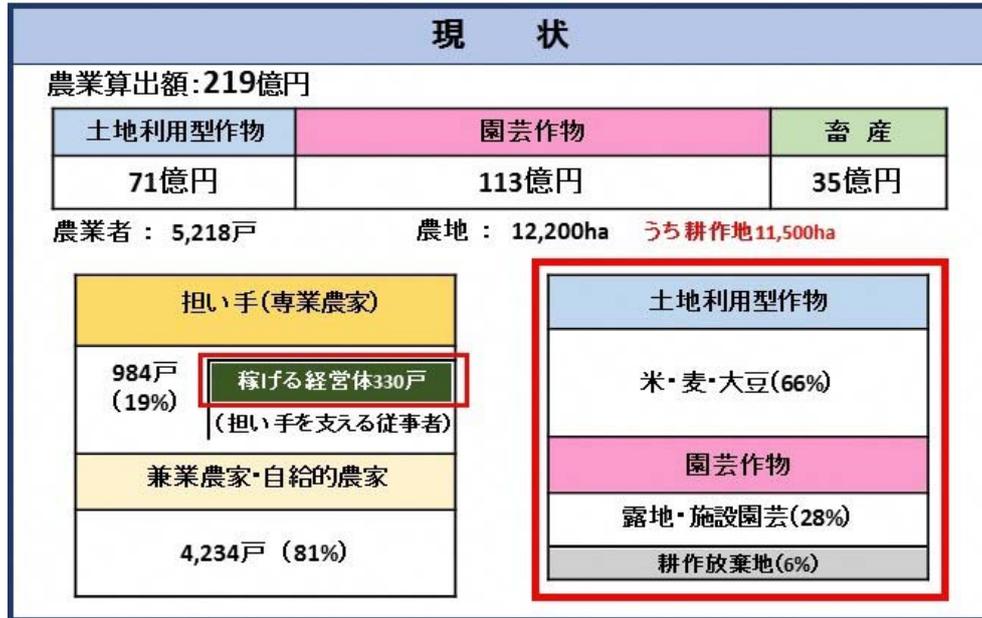
各々の役割を果たし、相互の連携を推進しながら、一体となって農業都市像の実現を目指します。

- 農業者 > 消費者ニーズに的確に対応した農産物の供給と良質な農産物を安定的に生産します。
> 確固たる経営基盤を築き、安定的な農業経営の継続に向け、意欲を持って効率的な営農活動に取り組みます。
- 農業団体 > 生産現場の実情に即した生産者ニーズの把握に努め、これに基づき、行政と連携して効果的な営農支援を実施します。
> 個人では対応できないスケールメリットを活かした戦略的なマーケティングの実践と、これに対応する生産・供給体制を構築します。

目指す農業構造

～宇都宮の食と農を未来につなぐ構造改革～

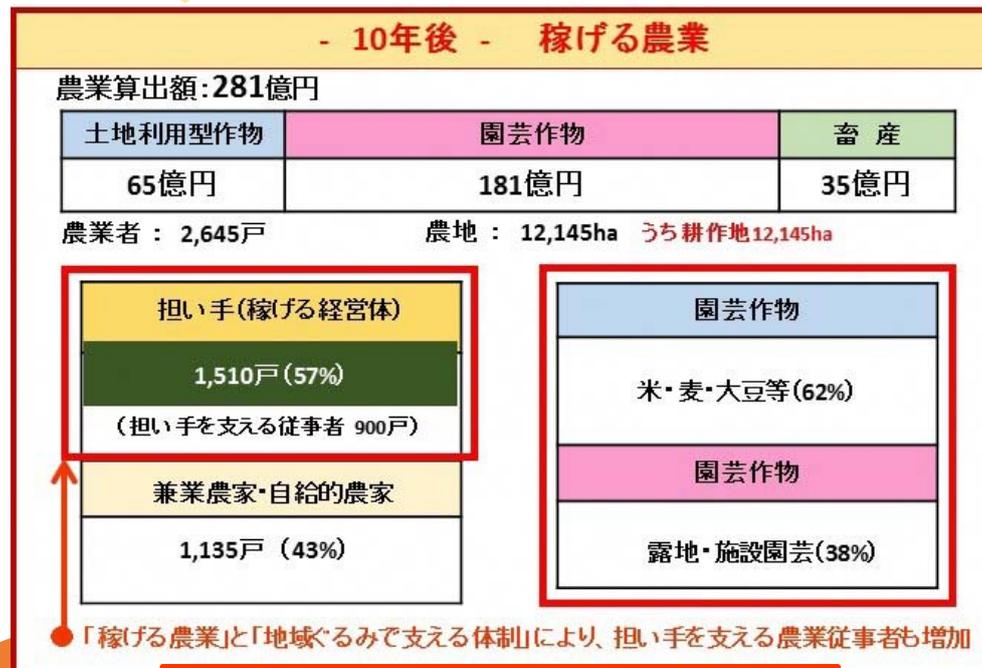
本市農業の役割である「食料の安定供給」、「経済の活性化」、「多面的機能の発揮」に向けて、農業者の農業所得が向上し、選ばれる職業として後継者が就農する「稼げる農業」の実現と市民や地域コミュニティが一体となって「地域ぐるみで農業・農村を支える体制」の確立を目指します。



効果的な事業の実施

地域の農業者の話し合いによる合意形成

- 担い手の農業経営にその他の耕作者の参画を促進
- 土地利用型農業から大規模露地園芸への転換
- 施設園芸における新規就農の促進
- 生産基盤の再整備による農地のフル活用 等



**消費者・市民・地域コミュニティ
地域ぐるみで農業・農村を支える体制**

- 商工業者
- 加工品等を積極的に活用して、宇都宮産農産物の新たな可能性を引き出します。
 - 良質な農産物を消費者の手に確実に届けるとともに、流通構造の改善等により、本市農産物の収益性の向上に寄与します。
 - 消費者から伝わる率直かつ的確な意見など消費者ニーズを把握し、生産者に伝えることで、需要に応じた農産物の生産に貢献します。
 - 農業分野との連携による商品・技術等の開発に取り組み、新たな価値を生み出すことで農業の収益性の向上に貢献します。
 - 本市の農資源等を活用したグリーン・ツーリズムや魅力の発信により、交流人口の増加を目指すとともに、経済の活性化に貢献します。

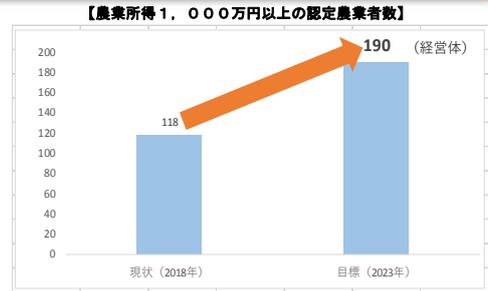
～ 今後5年間で重点的に進める, 4つのプラン～

産業

「稼げる農業」実現プラン

～「売れる農産物」を「効率的に生産する」稼ぐ力を高めます～

「稼げる農業実現プラン」は、農業所得1,000万円以上の認定農業者を、現在の118経営体から、190経営体に増やすことを目標として、生産コストを抑える取組と売上げ最大化するための取組を推進します。



プロジェクト1

生産性向上プロジェクト

大規模経営体の確保・育成や生産技術の高度化、生産基盤の整備等を進め、生産性の向上を図ります。

	現状 2017年	目標 2023年
目標1： 集落営農組織数	25経営体	40経営体
目標2： 担い手への農地集積率	52.7%	80%

担い手の農業経営の大規模化	農業経営の法人化等の促進 担い手への農地の面的集積の促進
農地のフル活用	水田の再整備・大区画化
露地・施設園芸の振興	ICTの導入の促進 農業機械等の導入促進 露地園芸の生産拡大 施設園芸の生産拡大 技術・施設等の農業経営の継承

プロジェクト2

売れる農産物づくりプロジェクト

多様な販売先を確保し、市場ニーズに応じた農産物の生産振興やブランド化等による付加価値の創出等により、売上げの最大化を図ります。

	現状 2017年	目標 2023年
目標： 直売その他直販額 (直売, 通販, 契約栽培等)	129億円	155億円

市場ニーズへの対応	国内外市場ニーズの収集・分析 需要に応じた米の生産振興 需要に応じた業務用農産物の生産振興
付加価値の向上	ブランド製品の品質向上と生産拡大 直売所等の充実・強化

消費者 > 宇都宮産農産物を積極的に消費することを通じて、宇都宮の農業を支えます。
> 宇都宮産農産物の質の良さを市内外にPRし、宇都宮産農産物の市場価値の向上に寄与します。

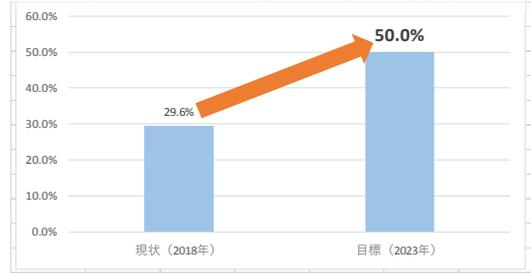
市民・地域コミュニティ > “農”の持つ多面的機能の重要性を理解し、豊かな自然環境を次世代に継承するべく農業・農村環境の保全に積極的に取り組みます。

「市民が支える農業・農村」確立プラン

～「食の実り豊かな農地・農業を支える」地域の力を高めます～

「地域ぐるみで支える農業・農村」確立プランは、本市農業を大切にしたいと非常に思う市民の割合を、現在の29.6%から、50.0%に増やすことを目標として、多面的機能の維持・向上と宇都宮産農産物の購入促進に向けた取組を推進します。

【本市農業を非常に大切にしたいと非常に思う市民の割合】



プロジェクト3

農の保全参画プロジェクト

地域農業の支え手や守り手の確保・育成に取り組むとともに、住民主体の農村づくりを推進し、市民参画による良好な営農環境の維持・保全を図ります。

	現状 2017年	目標 2023年
目標： 農業振興地域農地地域における環境保全活動カバレッジ	40.3%	80%

持続可能な営農環境の形成	担い手と兼業農家等が支え合う仕組みづくり 地域農業・農村の守り手の確保・育成
多面的機能の維持・向上	農村の自然環境・景観の保全 住民主体の農村づくりの推進 環境にやさしい農業の推進

プロジェクト4

宇都宮産農産物買い支えプロジェクト

農育・食育体験活動等を通じ、地域の「食」や「農」を守る市民意識を醸成することにより、宇都宮産農産物の購入を促進し、持続可能な農業の確立を図ります。

	現状 2017年	目標 2023年
目標： 宇都宮産農産物を積極的に購入する市民の割合	77.4%	100%

食と農の大切さの理解促進	宇都宮産農産物の購入意欲の喚起 学校給食等における地産地消の推進
農とのふれあい	農と食に関する意識啓発・魅力発信 農育・食育体験活動等の充実・強化 グリーン・ツーリズムの推進
身近で購入できる場の拡大	量販店等における宇都宮産農産物の流通拡大 直売所等の充実・強化 生産工程の見える化 都市農地近隣における直売の促進

行政 ➤ 国・県や市場等の動向や地域の現状を分析し、本市農業の持続発展に必要な施策の最適化を図り、着実に実施します。
➤ 各関係機関がそれぞれの役割を果たせるようハード・ソフト両面から支援・調整し、相互連携の円滑化を図ります。

農業公社 ➤ 農地利用権の設定、売買のあっ旋等農地に関する公的な事業を引き続き実施します。
➤ 本計画に掲げる施策事業の主力推進役として、事業を具現化し、実施します。

第2次宇都宮市食料・農業・農村基本計画 体系図

I 「生産力」の向上

農業所得580万円以上の認定農業者数
(現状) 423経営体 → (目標) 900経営体

地域に必要な担い手の確保・育成

- 地域の中心となる担い手の確保・育成
農業経営の法人化等の促進、担い手への農地の面的集積の促進 等
- 将来の担い手の確保
技術・施設等の農業経営の継承、若年層就農者の確保 等

生産性・効率性の高い生産基盤の整備

- 効率的かつ災害に強い生産基盤の整備
水田の再整備・大区画化、水利施設等の計画的な整備、長寿命化 等
- 農業生産施設等の効率化
共同利用施設の整備・利用促進

生産体制の高度化・効率化

- 効率的な生産技術の導入促進
ICT等の導入促進、農業技術の改善促進 等
- 収益性の高い作物の生産振興
露地野菜の生産拡大、主食用米における多収品種の普及促進
- 農地利用の効率化
担い手への農地の面積集積の促進（再掲）

II 「販売力」の向上

農業産出額 ※市内外に流通する宇都宮産農産物の額
(現状) 219億円 → (目標) 250億円

マーケティングの強化

- 多様な販路の確保
国内外の市場ニーズの収集・分析、ブランド農産物等の販路の開拓・拡大 等
- 情報発信力の強化
多様なメディアを活用した広告・宣伝の強化

市場を意識した農産物の生産振興

- 需要に応じた農産物の生産振興
需要に応じた米・業務用農産物の生産振興 等
- ブランド力の向上
農業者の魅力・ブランド力の発揮、ブランド製品の品質向上と生産拡大 等
- 安全・安心の見える化
販路拡大に向けたGAP普及の促進

市民と農家を結ぶ地産地消の強化

- 手に入れやすい仕組みづくり
市内量販店等における流通拡大、直売所等の充実・強化 等
- 市民が支える仕組みづくり
農と食に関する意識啓発・魅力発信、農育・食育体験活動等の充実・強化 等
- 安心感を高める仕組みづくり
生産工程の見える化、環境にやさしい農業の推進

III 「地域力」の向上

宇都宮の農業を大切にしたいと思う市民の割合
(現状) 88% → (目標) 100%

農村の活性化

- 持続可能な営農環境の形成
農村の生活機能の維持・向上、担い手と兼業農家等が支え合う仕組みづくり 等
- 多面的機能の維持・向上
有害鳥獣被害対策の推進、農村の自然環境・景観の保全

農業・農村の魅力発信

- 農育・食育の推進
農育・食育体験活動等の充実・強化（再掲） 等
- 都市と農村の交流の促進
グリーン・ツーリズムの推進

都市農業の振興

- 多様な機能の発揮
都市農地の適切な保全、都市農地近隣における直売の促進 等

「稼げる農業」の実現と「地域ぐるみで支える農業・農村体制」の確立に向けて



本市では、鬼怒川水系を中心とする豊かな水資源や、10,000haを超える肥沃で広大な農地などの恵まれた自然条件を活かし、米を基幹作物とし、園芸、果樹、花き、畜産など、多岐に渡る高品質な農産物が生産されています。

こうした中、本市におきましては、「農業王国うつのみや」の実現に向けて、これまで、未来の担い手の育成や農業生産における収益性の向上に取り組み、直近5年間で新規就農者は110経営体増加し、農業産出額も34億円増加するなど、一定の成果をあげてきたところであり、本市の農業は本市の経済を支える主要な産業の1つとなっています。

しかし、一方で、わが国においては、依然として農業者の高齢化や減少が進行し、農業・農村の活力の低下が懸念されており、さらには、経済活動のグローバル化や人口減少による産地間競争の激化など、農業を取り巻く環境は厳しいものとなっていることから、これらの環境の変化に応じた取組がますます重要になっているところです。

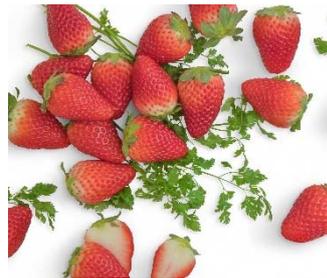
こうしたことから、今回、改定を行った後期計画では、10年後の目指す農業構造を明確化し、産業政策と地域政策の視点から「稼げる農業」の実現と「市民が支える農業・農村」の確立に向けた2つの戦略プランを掲げ、施策事業の重点化を図るとともに、現行計画の3つの施策の柱を引き継ぎ、「生産力」「販売力」「地域力」の向上を基本目標とし、これらの施策事業に着実に取り組むことで、持続可能な力強い「農業王国うつのみや」の確立を目指すものとした。

今後、本計画に掲げる施策事業の実効性を高めながら、目指す農業構造を実現していくためには、行政機関だけでなく、農業者や農業団体、商工業者、消費者、市民・地域コミュニティの連携が不可欠でありますことから、皆様のより一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、計画の改定に当たり、熱心な御審議をいただきました「宇都宮市農業振興対策審議会」、「宇都宮市地産地消推進会議」の委員の皆様をはじめ、御意見・御協力をいただきました市民の皆様及び関係各位に心より感謝申し上げます。

2019年3月 宇都宮市長 佐藤 栄一

宇都宮市の農産物



いちご

とちおとめの他、大粒の「スカイベリー」、大谷石の採石場跡地に溜まる水の冷熱を利用して生産された「なつおとめ」は「大谷夏いちご」として販売されています。



トマト

5つの作型に分かれ、桃太郎や麗容などの大玉トマトを中心に年間を通して栽培されています。糖度7度以上の甘いトマトのみを「プレミアム7」として販売されています。



なし

「幸水」や「豊水」でおなじみの日本梨が多く、中でも、形がよく、糖度が13度以上と高いものを「プレミアム13」として販売されています。



ねぎ

新里地域で江戸時代末期から変わらぬ栽培方法で生産されている伝統野菜です。柔らかく、甘みの強い新里ねぎは、国の「地理的表示(GI)保護制度」に導入されました。



にら

1月に旬を迎える冬型の栽培が盛んですが、夏にも栽培はされており、1年を通して収穫されています。



アスパラガス

宇都宮市で栽培されるグリーンアスパラガスは、2~4月と6~10月の2期にわけて収穫・出荷が行われています。茹でてよし・炒めてよし・揚げてよしの人気野菜です。



米

コシヒカリを中心に、宇都宮大学が育成した「ゆうだい21」や、食味の良いコシヒカリを厳選したものは「みやおとめ」として販売されています。